

日本林業技士会よりの ご挨拶



日本林業技士会会長 小林 洋司

平成 30 年 7 月豪雨災害、平成 30 年北海道胆振東部地震による 災害被災者並びに関係各位にお見舞い申し上げます！

「平成 30 年 7 月豪雨」は、平成 30 年 6 月 28 日から 7 月 8 日にかけて、西日本を中心に北海道や中部地方など全国的に広い範囲で記録された台風 7 号および梅雨前線等の影響による集中豪雨であり、気象庁が命名した。台風 7 号は太平洋高気圧の外側を回り込むように 7 月 4 日にかけて東シナ海を北上し、対馬海峡付近で進路を北東に変えて日本海上に抜けたが、北海道に停滞し、雨量が 7 月の月降水量の平年値を超えるなどし、北海道では堤防の決壊や内水氾濫に伴う床上・床下浸水、崖崩れ等の被害が出た。

さらに「北海道胆振東部地震」は、平成 30 年 9 月 6 日 3 時 7 分 59.3 秒に、日本の北海道胆振地方中東部を震源として発生した地震である。地震の規模は M_j 6.7、震源の深さは 37km (いずれも暫定値)。最大震度は、震度階級で最も高い震度 7 で、北海道では初めて観測された。震源に近い勇払郡厚真町吉野地区の山林では大規模な崖崩れが広範囲で発生し、多数の住宅が巻き込まれた。厚真町、安平町、むかわ町では多くの住宅が倒壊した。室蘭市の新日鉄住金室蘭製鉄所ならびに、厚真町の苫東厚真火力発電所で火災が発生し、全道で停電が継続した。

その後も台風は、25 号まで発生、いずれも大型の台風でありました。

多くの被災者にたいしてまた災害関係の皆さんにお見舞い申し上げるところです。これらの災害は、近年における温暖化の影響から来る異常気象が原因とされ、頻繁に豪雨が生じています。地震についても日本列島が活動期に入っていると言われ、いつでも大地震が生じてもおかしくないと言われるところです。私たち林業に携わるものとして、森林を保全し整備して環境保全の一翼を担い、地球温暖化防止に寄与している立場から、慚愧に堪えない思いは林業技士の皆さん感じるところでしょう。

さて、私たち日本林業技士会会員は、これら災害に大いに関心を持ち、災害の復旧に直接関わりを持ち、また他者から活躍を期待されているところでしょう。さて、本部の動きを報告します。

本年、3月20日には、「日本林業技士会山形県支部」が山形市産業創造支援センターにて設立されました。支部規約、役員、平成30年度予算が決定されました。会員皆さんに報告したいと思います。選出された 丹 四郎支部長（国土防災技術）以下役員の活躍を期待したいと思います。

本部としても、第23番目の支部として設立されたこと、東北6県すべてに支部が設立されたこと等、極めて喜ばしいことと思います。

林業を取り巻く状況を見ますと、多発する労働災害、低迷する材価と依然として厳しく、地域活性化の成長産業化ということもどうなるか、と思います。林野行政の動きは、森林環境税、森林環境譲与税法の成立に伴う政策、路網と機械化、施業の集約化、技術者養成、フォレスターの育成などありますが、林業関係者の奮起に期待しております。林業技士との関係からは、フォレスター制度、森林施業プランナー、森林作業道オペレーターの育成、フォレストマネジャーの登録などです。フォレスターの資格試験は、林業技士の場合には、一部試験免除となっております。

日本林業技士会の会員数は、現在約3600名となっております。高齢の退会者も多いのですが入会者は毎年約200名になります。入札制度における総合評価の資格の点あるいはCPD登録といった面から評価されたものと考えております。

日本林業技士会は、新しい林業技士会へと頑張っております。

たとえば必要な情報をできるだけ伝えること、林業技士の更新、CPDの登録の便宜を図り、支部活動に支援して参りました。具体的には、林業技士会ニュースの充実、会員増加対策、情報提供としてメール配信、ホームページを充実、森林・自然教育会（JAFEE）と連携し、CPDの登録の便宜を図りました。森林技術協会、その他団体と連携し、情報の吸収と配信を行いました。今後も林野庁他の官庁との連絡を取り、陳情等、技士資格活用を計ります。

今後も、会員のニーズに合わせてできるだけサービスを行うこと、例えば支部会活動をより活発に行えるようにしてまいりたいと思います。日本林業技士会の活性化については、私ども本部関係者の活動は当然のことながら、会員自身の活動と理事の皆さんの協力、特に各支部長さんの活躍にかかっているものと思います。

林業技士会員の皆さんには、今後とも林業技士会発展のため、どうぞよろしくお願いいたします。

平成 30 年 10 月